

中野区教育委員会会議録

令和2年第26回定例会

令和2年10月9日

中野区教育委員会

令和2年第26回中野区教育委員会定例会

○日時

令和2年10月9日（金曜日）

開会 午前10時00分

閉会 午前10時33分

○場所

中野区役所5階 教育委員会室

○出席委員

教育委員会教育長 入野 貴美子

教育委員会委員 田中 英一

教育委員会委員 小林 福太郎

教育委員会委員 伊藤 亜矢子

教育委員会委員 渡邊 仁

○出席職員

教育委員会事務局次長 戸辺 眞

参事（子ども家庭支援担当） 小田 史子

子ども・教育政策課長、学校再編・地域連携担当課長
永田 純一

指導室長 宮崎 宏明

学校教育課長 板垣 淑子

○書記

教育委員会係長 金田 英司

教育委員会係 香月 俊介

○会議録署名委員

教育委員会教育長 入野 貴美子

教育委員会委員 渡邊 仁

○傍聴者数

9人

○議事日程

1 協議事項

- (1) 令和3年度(2021年度)教育予算編成に向けての基本姿勢について(案)(子ども・教育政策課)

○議事経過

午前 10 時 00 分開会

入野教育長

それでは、定足数に達しましたので教育委員会第 26 回定例会を開会いたします。

議事に入ります。

本日の会議録署名委員は渡邊委員にお願いいたします。

本日の議事はお手元に配付の議事日程のとおりでございます。

それでは日程に入ります。

<協議事項>

入野教育長

協議事項に入ります。

協議事項 1 番目の「令和 3 年度（2021 年度）教育予算編成に向けての基本姿勢について（案）」を協議いたします。

初めに事務局から説明をお願いいたします。

子ども・教育政策課長

それでは「令和 3 年度（2021 年度）教育予算編成に向けての基本姿勢について（案）」につきまして、お手元の資料によりましてご説明をいたします。

初めに、区を取り巻く情勢と予算編成の考え方を示してございます。読み上げをさせていただきます。

「教育予算の編成に当たっては、先に区長が定めた令和 3 年度中野区予算編成方針を踏まえ、教育委員会として自らの権限と責任において、主体的に行っていく必要がある。

令和 3 年度においては、新型コロナウイルス感染症の広がりによる日本経済の落ち込みが区財政にも大きな影響を与え、区の一般財源は令和 2 年度当初と比較して大幅な減収となる見込みである。

このような状況においても、教育委員会としては、教育の質を向上させるとともに、新たな教育課題に的確に対応していく必要がある。

よって、令和 3 年度教育予算の編成に当たっては、経常経費や既存事業の見直し等により財源を確保していくこととし、下記の基本方針に基づき、真に必要で優先度の高い事業を展開するために、より有効な実施方法等への見直しなどにより教育行政の一層の充実を図る。」としてございます。

続きまして、基本方針といたしまして、以下の五つを掲げてございます。

1 自分の可能性を伸ばし、自ら考え、学び、行動することのできる人材を育成するため、子どもたち一人ひとりの特性に応じたきめ細かな教育を推進するとともに、「確かな学力」、「豊かな人間性」、「健康・体力」のバランスのとれた教育を展開する。

2 人格形成の基礎となる幼児期における教育の充実を図るとともに、継続性を確保した教育により子どもたちが「よりよく生きる力」を確実に身に付けていくための保・幼・小・中連携教育を推進する。

3 家庭、地域、学校の連携により、社会全体で子どもたちの健康と安全を守り、健全に育成する取組を推進する。

以上の三つの項目につきましては、中野区教育ビジョン（第3次）の中で、教育理念を実現するための視点として掲げているものでございます。

続きまして4 子どもたちが安心・安全に学び、これからの新しい教育に対応できるように、中野区立小中学校再編計画（第2次）に基づく学校の再編、新校舎の改築・移転を進めるとともにその検証を行う。

今後の社会の変化や地域状況に対応できる学校施設の改築を計画的に行い、学校環境の一層の改善を進めるとしてございます。

この項目につきましては、学校再編計画に基づく学校の環境の整備につきましては、着実に進めていく必要があること。また、一方で今後の改築や改修等につきましては、区の財政見通しを踏まえた上で、中長期的な視点から計画の見直しを図る必要があるというものでございます。

次に5 新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた対策を引き続き実施するとともに、子どもたちの教育機会確保のための対応を充実するとしてございます。

これは、今回新たに生じた感染症拡大という状況におきましても、感染拡大防止策とともに、学びの機会を確保していくためのICTの活用など、様々な手だてを講じていくことが、今後も引き続き重要であるとの認識でございます。

次に予算編成において重点を置く項目として、二つ掲げてございます。

まず一つ目が、新学習指導要領の目指す学力の定着と心身ともにすこやかな幼児・児童及び生徒の育成のための授業改善を進める。

そのためにGIGAスクール構想に基づくICT環境の構築等、これからの学びに対応した学校教育環境の整備を推進するとともに、各学校の支援を行うとしてございます。

これは児童・生徒1人1台の情報端末の整備と、それに伴う高速通信環境の構築及びICT支援員の配置などを念頭に置いたものでございます。

二つ目は、(仮称)総合子どもセンターの開設にともない、子ども・教育にかかる専門性の高い相談や切れ目のない支援を行うための仕組み等の見直し・調整を行う。

また、教育センター機能を充実し、教科教育・指導法の研究、いじめや不登校の予防や対応、障害や発達に課題のある幼児・児童・生徒を含めたすべての幼児・児童・生徒の育成に資する対応力や指導力の向上等教員の人材育成を図る。

「知の拠点」としての図書館機能を充実するとともに、生涯を通じての継続的な学びの場として魅力ある図書館づくりを推進するとしてございます。

これにつきましては、来年度中野東中学校内複合施設におきまして、(仮称)総合子どもセンター、教育センターなどが開設されることを契機といたしまして、専門的な相談や支援の仕組み、教員の人材育成などにつきまして、より一層の強化を図っていく考えでございます。

一方、図書館につきましては、中野東図書館のほか、地域開放型学校図書館3館の開設。ブックスタート事業などの取組によりまして、子どもから大人まで生涯を通じての読書活動のさらなる推進を図っていくという考えでございます。

ご説明は以上でございます。

入野教育長

ただいまの説明につきまして、質問等ご発言がありましたらお願いをいたします。

田中委員

次年度に向けた基本方針をまとめてくださってありがとうございます。

感想なのですが、基本方針の5に付随することかもしれないのですが、今回の新型コロナウイルス感染症への対応を見ていたとき、幼稚園、保育園も含めて小中学校の義務教育の段階で、健康教育を通じて、子どもたちが自分たちの健康を守るとか、それから周りの人の健康を守るという、そういった意識をこれまでずっと積み重ねてきたことが、今回の新型コロナウイルス感染症を大きく拡大させなかった、日本の大きな要因ではないかなと僕は感じています。

ですから、5のところ少し今までの我々が取り組んできた、そういった健康教育などが大きな成果を上げたので、さらにそれを充実していくというニュアンスの。きちんとした文章ではないのですが、加えることはどうかなという、感想なのですが、そ

んなことを感じました。

以上です。

入野委員長

今の田中委員の意見も含めて、ほかにもご意見ございますでしょうか。

渡邊委員

予算編成の内容として、非常に我々の意向を十分反映してくれた文章になっているのではないかなと思います。

この基本方針、そして重点を置く項目という書き方をさせていただいているわけですが、この重点項目の中に新型コロナウイルスのことが入っていないではないかというご意見があるかもしれませんが、実際には、それは当然対策を実施する中で、重点項目の部分は、今年度については、ここは譲れないぞという、そういう我々の気持ちがこもっているのではないかなと。

そういう意味では、この予算編成において重点を置く項目ということで、重要なG I G Aスクール構想という言葉も、I C Tという言葉も使われていますけれども、学校教育の環境整備を十分推進していくのだと。それに必要な物品をそろえざるを得ない。それについては、我々としては譲れるところではないと。

そして、物だけではなくて、人の支援ということもこの中に含まれていて、各学校に支援を行うと。教育環境と学校環境を充実させることはやはり譲れないと。今回については、あえてG I G Aスクール構想という言葉を取り上げさせてもらっていると考えております。

また、11月には児童相談所を含む（仮称）総合子どもセンターができ上がるということで、私たちとしてもこの大切な場所を、図書館につきましても同じですけれども、いかに有効に使えるかということを実際に考えていかなければいけない。そのためには、今度は人を育てる必要があるだろうということを、ここに盛り込んだということは、この財政が苦しい中においても、やはりこの部分については、私たちとしても譲れない部分ではないかなと思いますので、ぜひ、実現が可能な範疇で、そのあたりを推進していただければと思っております。

これは私の感想になります。以上です。

伊藤委員

新型コロナウイルス感染症のような何かがあると、時代の変化が促進されるなんていうことをよく聞きますけれども、実際、ちょうど計画されていたG I G Aスクール構想や（仮

称) 総合子どもセンターのこともあって、本当に、教育がすごく変わっていく節目のようところが、来年度になる可能性もあるのだなということを感じました。

その中で、新学習指導要領ということも含まれていますし、総合的な子どもへの支援ということも含まれ、また、社会教育へのつながりの図書館ということも盛り込まれて、バランスもよいのではないかなと思いました。こうしたところが、苦しい財政の中でも重点を置いていただけるならば、子どもたちにとって実のある成果というか、実のある学校教育の改善につながるのではないかなと思いました。

1点、些末なことではございますが、多分2の教育センターのところ、教育センター機能の充実の中に入っていると思うので、このままでもよろしいように思うのですが、「教育センター機能を充実し」の後が、教員の人材育成ということでもとめられているので、わかりやすくなった一方で、教育センターの相談支援機能ということも書いたほうが、バランスがとれるということであれば、例えば「また、教育センター機能を充実し」の後に、「その相談支援機能とともに」という感じで、相談機能ということも明記するという方法もあるかもしれないと思いました。教育センター機能の中に入っていることだと思うので、大丈夫だとは思いますが、感想というか、そのように思ったということです。

以上です。

小林委員

毎年、この予算編成に関わって、こうしたことを協議しているわけですが、改めてこうやって見ますと、表題は「基本姿勢」となっているわけです。予算については、人間の生き方と同じで、お金をどう使うかによって、その人の人生が大分変わってくると、一般論でよく言われますけれども、予算の使い方というのは非常に重要な側面があると思います。

非常に短い文章の中で、コンパクトに様々なことが入っていますので、いろいろな願いが込められているわけなのです。そういう点で、改めて、全体的な内容としては、方向性も、重点の項目もこれでいいかなと思うのですが、幾つかコメントというか、感じたこととお話をし、必ずしも直しましょうではなくて、場合によっては少し検討していただきたいというところがあります。

それは、一つには、基本方針の4に、もちろんこれはそういう意味ではないと思うのですが、「子どもたちが安心・安全に学び、これからの新しい教育に対応できるように」という言葉なのですけれども、もちろんこれはそのとおりだと思うのですが、新しい教育に対応することが目的ではないのです。子どもたちが、安心・安全に学べるようにするため

に、新しい教育を使うわけで、それは新しい教育も、もちろんいいわけですが、これまでやってきた様々なことを大事にしながら、まさに不易と流行のような形で、一体的に進めていくわけですので、やはり子どもたちが安心・安全に学ぶことができるように、新しい教育にも対応し、さらにこういった再編計画を進めるのですよとしていかないと、学校の先生方も日々、非常にお忙しい中で取り組んでいて、ICTも含めて、これに取り組みばいいのだみたいな、そういう意識に駆られてしまうと、子どもの立場に立った指導ができなくなってしまうというのでしょうか、そういうよくないスパイラルに陥ることがあると思います。

細かいことのようにですけども、要するに目的と方法、私、たびたび申し上げますけれども、そこをしっかりと見極められるように、すっきりとしておいたほうがいいかなと思います。

重点を置く項目の1なのでですけども、もちろんこれも間違いではなく、このとおりでいいと思うのですが、授業改善を進めると。そのために、重点ですから、こうしたICT環境、GIGAスクール構想を進めていくのですが、実は授業改善を図るのは、ICTだけではなくて、もっと様々な視点があるわけです。ですから、これはこれでももちろん、予算の上ではここに重点を置くと。渡邊委員がおっしゃられたように、これは非常に膨大な額も必要とするわけです。ここは譲れない部分であるということで、これはこれで強調していいと思うのですが、やはり教育委員会、特に学校を指導する際に、この部分が、これだけではなく、そのほか心の教育もしっかりやっていく必要があるのだとか、そういった全体的な指導をしていく必要があると思いますので、こちら辺も、予算編成ではあるものの、やはり教育の根幹に関わる重要な意思表示だと思いますので、文章はさらにブラッシュアップしていくというのですか。そういうことが重要なかなと思っています。

あと、これは私自身もまだ迷いがあって、ではどうするのかということもあるのですが、学校の支援をしますよと。それから2番目の見直し・調整を行いますよと。確かに、教育委員会が何かやるわけではなくて、実際にやるのはそれぞれの現場で、しっかりと先生方が、それぞれの実態、子どもたちや地域の実態に応じて、実際に指導していくわけですけども、その調整を行って、その上で、子どもたちにこのような成長をしてもらいたいのだという、目指す一言ですね。よりよい人生が切り開かれるようにしていくのだとか、それは今、見えていない文言ですけども、そういうものを私たち教育委員会も掲げたほうがいいのかなという思いを持っています。この辺は必ずしも入れろというのではなくて、少し考え

ていく必要があるかなと思いました。

それから、ここでは図書館の機能に関して、このような形で書かれていることは大変いいことだと思います。特に今後、学校と図書館との結びつきとか、それからICT環境との結びつきを一体的に進めていく、教育委員会の考え方を前面に出していくことが大事なのだなど、これを読んで非常に感じました。

冒頭、田中委員がおっしゃられたように、私も感想のようになってしまいましたけれども、以上であります。

渡邊委員

今年度、来年度という形で申し上げますと、新型コロナウイルスの感染拡大に伴って、いろいろと社会が非常に苦しい状況に陥っているのは、誰もが感じているところかと思えます。そういった中で、私たちも予算を要求するに当たって、区の財政についても、実際にとても大変だろうなということは気づいているわけでありまして、そういう意味では、あえてこの場で私が言うべきなのか、わからないですけれども、教育委員会としても、予算に余裕があれば、いろいろな事業の展開ということもできるとは思うのですけれども、その中でも今回は非常に貴重な予算という考え方を皆さんがお持ちになっていただいて、貴重な予算の中で、教育の結果というのは難しいのですけれども、結果のある、価値のあるものを。子どもたちのためになることを優先に考えて、単に去年のままのような予算ではなくて、ここには書き込まれていませんけれども、細かい部分については、慎重に取り組んでいただいて、必要なもの、そしてやるべきものを見極めて、そしてしっかりと順位をつけながらやっていっていただきたいなど。

やはり、教育のところですから、譲れない部分が多いのですけれども、私たちの社会に対する誠意も見せなければいけないのかなと思いますので、大変ですけれども、担当者の方はそのあたりをよく考えてお願いしたいなと思っております。

これも私の個人的な意見で申し訳ありません。

小林委員

今、渡邊委員がおっしゃられたこと、まことにそのとおりだと思います。厳しい状況の中で、予算が削減されるということで、様々工夫しながらということになると思うのですが、私は学校に対しての基本姿勢というのは、これまでの、今回のこういった感染症対策が起こるその前のものに戻すという発想はやめたほうがいいと思うのです。

要するに、新しいものをこういう機会の中でつくっていくのだという発想を持っていか

なければいけないと思うのです。だから、何か回復して、もとに戻してよかったねなんていうことでは、今回のこういった厳しい状況は生かされないと思うのです。長年学校教育がやってきたものを見直す非常にいい機会になっています。実際に「ああ、これでできるのではないのか」とか、「こういうものはやはり要らないのではないのか」とか、逆に「やっぱりこれは必要だよな」というものが、はっきり浮かび上がってくると思うのです。これはある意味では働き方改革にも直結することだと思いますし、子どもたちの過重な負担を除いて、のびのびと生活をさせていくという点でも、非常に重要な視点だと思うのです。いわゆるやるべきことがあって、これを消化しなければいけないという、箱詰めのような教育体制から、新しいものをつくっていくという発想をしていく必要があると思うのです。

先ほど申しあげましたように、何でもかんでも新しいものもいいということではなくて、今までやってきたもののうち、最低限何を続けていかなければいけないのか。そして、何を省けるのか。そして、何を新しく持ってこなければいけないのかということの見極めをしていく必要があると思いますので、少なくとも教育委員会の全体のスタッフは、そういう気持ちを持って取り組んでいく必要があるのではないかなとは、非常に強く感じます。

以上です。

伊藤委員

委員方のご意見などを聞きまして、少し感想というか、何点か付け加えたいと思いました。3点あります。

一つは、やはり新型コロナウイルス感染症などでいろいろな子どもたちの学びが、個人差ができてしまったり、社会が経済的にも大変な中で、子どもの置かれている環境も個人差というか、様々に、さらに多様化してしまっているのかなと思いますので、そういった中で公教育の役割というか、どういう家庭環境、どういう状況に置かれたお子さんでも、これからの社会に対応していけるような力を確実につけることができるような学校環境をという考え方が、より一層大事になっていくのではないかなと、この予算編成に向けての基本姿勢を見ても感じました。それが1点です。

それからもう一つは、小さなことなのですが、基本方針4のところ、「検証を行う」と書かれていて、ずっと気になっていて、わからないのでこれは質問なのですが、これは再編とか改築、移転の検証なのか、再編計画の検討というか、再編計画の見直しということなのか、どっちにも読める文章かなと思ひまして、そこはもしかしたら意味合いをもう少し明確にする必要があるかなと思ひました。

最後は、先ほど小林委員も言われていましたが、GIGAスクール構想、ICT環境の構築ということは、一つは情報にアクセスしやすくなるか、情報を整理するという学び。情報の整理の仕方を学んだり、よりの確に情報にアクセスするということがあると思うので、その目的は図書館機能の充実ということと確かに非常に一致しますので、何となくばらばらなことではなくて、新しいコロナ後の社会の中で大事なことを多方面から実現していくという、統合的なコンセプトみたいなことが、今回でなくても出せるようにしていくということが大事だなと思いました。ばらばらの、一つ一つの授業というのではなくて、大きな目標、公教育の意味合いとか、これから必要な情報化に対しての確実なアクセスとか、何かそういう方向性ということが見えるような予算とか、授業の組み方というのも、とても大事だなと思いました。

以上です。

学校再編・地域連携担当課長

ただいまご質問いただきました学校再編等に係る検証ということでございます。

これにつきましては、教育委員会では中野区立小中学校再編計画に基づきまして、学校の再編を進めてきているところでございますが、そこで想定をしてございました人口の推計でありますとか、また、施設の規模、通学区域等々につきまして、想定を超えるような人の動きであるとか、社会の変化などがございますので、そうしたところを検証していくということで、さらに今後必要な対応、改善すべき点があれば、そうしたことについても検討を進めていく必要があると考えているところでございます。

伊藤委員

そうしますと、その検証の中身というのは、計画の妥当性という言葉がきついのかもしれませんけれども、計画の適切性の検証かもしれないですけれども、そういう意味合いだと理解してよろしいでしょうか。

学校再編・地域連携担当課長

そのとおりでございます。

入野教育長

再編計画本体というよりは、一つ一つ進めていくものを検証という意味で、とりあえずは言っているということですかね。

学校再編・地域連携担当課長

計画が基本にはなるわけですが、実際には様々な施設整備、または改修等々行ってきて

ございますので、そうしたことも含めまして、全体として、そのような点検をしていく必要があると考えているところでございます。

入野教育長

先ほど小林委員からお話があった目標となる部分の表現については、基本方針のほうがどちらかという目標となる部分で、重点項目は方法的な部分と捉えて整理ができるかと思うのですけれども、それにしても表現がこれでいいかどうかをもう1回、そういう視点でも見てまいりたいと思います。

田中委員からもございました、健康教育のことについても、基本方針のほうで、いかに述べられていくかとか、触れられていくかということも視野に入れて、再度検討してまいりたいと思います。

ほかにございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、ほかにご意見がございませんので、本件に関する協議を終了し、事務局は次回の議決に向けての準備を進めていただきたいと思います。

<教育長及び委員活動報告>

入野教育長

それでは次に、教育長及び委員活動報告でございます。

特に事務局からの報告はございませんけれども、各委員から活動報告がございますでしょうか。

発言がございませんので、教育長及び委員活動報告を終了いたします。

それでは事務局から、次回の開催について報告をお願いいたします。

子ども・教育政策課長

次回の開催につきましては、10月16日金曜日の10時から、当教育委員会室にて予定してございます。

入野教育長

以上で本日の日程は全て終了いたしました。

本日はこれもちまして教育委員会第26回定例会を閉じます。

ありがとうございました。

午前10時33分閉会